

中国信息（W T O / F T A ・ 貿易 ・ 安全 ・ その他）

2008 年 1 月 16 日号

◎2007年12月油糧・食用油市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年12月における油糧・食用油市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 2007年の主要油糧作物は減産、2008年のは種面積は増加予測

2007年は油糧（大豆を除く）は種面積が減少し、油糧生産量は2年連続の減産、菜種は3年連続の減産となった。同年は菜種の買上価格が大幅に上昇し、単収の増加したことから、アブラナの栽培収益は大幅に増加した。これに加え、国务院の「油糧生産発展の促進に関する意見」公布によりアブラナの良種補助や生産県に対する奨励政策など、農民の油糧栽培の積極性を誘引する措置を実施したことから、アブラナなど2008年の主要な油糧作物のは種面積はやや増加すると予測されている。

2 2007年の油糧および食用油輸入は増加、特に食用油輸入は大幅増

2007年の主要な油糧作物減産により、国産油糧による搾油可能量は1,050万トンで、需要を満たすには遠く及ばず、油糧および食用油的輸入は引き続き増加するとみられている。2007年1～11月の輸入油糧（大豆を含む）は前年同期比7.8%増の2,889.1万トン、輸入食用植物油は28.5%増の772.2万トンとなった。輸入油糧による搾油量と輸入食用油的の合計は1千万トン以上と見積もられ、国内食用油総消費量の50%前後を占める。

3 世界の油糧および食用油消費量は増加、在庫量は大幅減

米国農務省（U S D A）の12月の予測によると、2007/08市場年度（2007年10月～2008年9月）の世界の油糧生産量は、前年度比3.7%減の3.913億トンと見積もられている。うち主要油糧である大豆の減産幅は大きく、8.8%減とみられている。世界の油糧圧搾量は

2.7%増の3.408億トンと予測されている。また、世界の油糧貿易量は8.1%増の8,717万トン、期末在庫量は22.5%減の5,451万トンと見積もられている。

同じく食用植物油生産量は、4.0%増の1.27億トンと予測されている。うち大豆油および菜種油は4.6%増および3.2%増、綿実油及び落花生油は基本的に前年度並みとみられている。消費量は4.2%増の1.27億トン、貿易量は4.7%増の4,876万トン前後、期末在庫量は7.8%減の814万トンと見積もられている。

4 食用油の工業消費は急増、国際価格は大幅上昇

原油価格の大幅高騰を背景にバイオディーゼル生産が急速に推進されたことにより、欧米などでは大豆油、菜種油およびパーム油の工業消費は急増した。一方、燃料用エタノール産業の需要亢進により、米国ではトウモロコシ生産が拡大し、大豆生産量が大幅に減少したことに加え、カナダでは菜種生産量が減少するなどし、世界の大豆および菜種生産量が減少し、在庫量も大幅減となった。食用油生産の増加は、消費の増加を満たすことができず、世界の食用油期末在庫量は大幅減少し、最近10年間で最低水準となった。こうした背景の下、2007年第2四半期以降、世界の主要な食用油市場価格は全体に急騰する傾向を示し、史上最高記録を更新し続けた。

品目別には、パーム油および大豆油の騰勢はさらに増し、2007年の大豆油（南米の未精製大豆油のC N F（C & F 価格、1990年の国際商業用語改正後はC F R 価格：運賃込み価格＝F O B（本船渡し）価格＋運賃）。以下同じ）、パーム油（マレーシアのパーム油（融点24℃）のF O B 価格。以下同じ）および菜種（カナダの菜種のC N F 価格。以下同じ）の平均価格は、1トン当たり846ドル、764ドル及び460ドルで、前年度比48.3%高、70.2%高及び48.8%高で、史上最高水準となった。

現在、食用油価格は依然として高水準で上昇する勢いを見せている。12月19日の菜種価格は1トン当たり600ドル（前月比1.7%高、前年同月比61.3%高）、大豆油価格は1,100ドル（前月比0.2%高、前年同月比53.0%）、パーム油は955ドル（前月比2.7%高、前年同月比70.5%高）となった。

内外の価格を比較すると、カナダ産の輸入菜種の通関渡し価格（Duty Paid：C I F＋関税等）は、江浙地区の新収穫の菜種工場買取価格に比べ1トン当たり1千元高く、南米の未精製大豆油の通関渡し価格は、山東省の4級大豆油の平均工場出荷価格に比べ、同150元安かった。